



『カッチン』

いずみたかひろ／作 津田櫓冬／絵 小峰書店 2014

1959年、神戸。カッチンのまわりには、仲良しの俊介しゅんすけにユージ、野球が上手な龍成、いつも優しいきっさてんのおじさんのヤッサンやみんながいます。カッチンはこの街とみんなが大好きです。はなれてもまた、どこかで会えるようなきがします。心が温かくなる物語です。



『ガマ 遺品たちが物語る沖縄戦』

豊田正義／著 講談社 2014

沖縄にそんざいする数多くのガマごう（壕）と呼ばれる洞くつ。そこからは、遺骨のほかに学用品や日用品もほり出されます。ガマのなかで、ばくだんやどくガスでいのちをおとした人々の存在を、「すずり」「めざまし時計」「アルバム」をとおして えがきます。



『ハングリーゴーストとぼくらの夏』

長江優子／著 山田博之／画 講談社 2014

父親の転勤でシンガポールにやってきた朝芽（はじめ）は、植物園でふしぎな体験をします。そこで出会ったのは1945年の8月を生きる、植物園の関係者たち。植物や戦争中の日本とシンガポールの歴史もわかる一冊です。



『机の上の仙人—机上庵志異—』

佐藤さとる／著 ゴ布林書房 2014

机の上に住みついている机上庵先生。二寸（6センチ）ほどしかない小さな仙人です。先生の摩訶不思議な話にひきこまれていきます。『だれも知らない小さな国』の作家が、中国のお話をもとに書いたファンタジーです。



『ペンダーウィックの四姉妹 夏の魔法』

ジーン・バズオール／著 代田亜香子／訳 小峰書店 2014

ペンダーウィック家の四姉妹は、大きなおやしきの、庭の中にあるコテージで、夏休みを過ごすことになりました。それぞれに性格のちがう4姉妹は、この特別な時間に、ぼうけんやあこがれなどさまざまなことを経験けいけんします。忘れられない夏の物語です。

もう1冊



ながい夏休み！

「あまり 本を よまないなあ。」

そんなひとは、読書感想文の本のほかに

もう1冊 本をよんでみる いいきかい。

「本だいすき。」 そんなひとは、

1冊でも 多く本をよむ いいきかい。

みなさん、夏休みにあと “**もう1冊**” 本をよんでみませんか。

すてきな本に であえたことは、

きっと 夏休みの **いい思い出**に なるかもしれません。

このブックリストでは、さいきん出た **おすすめの本**を
しょうかいしています。

2015夏



このブックリストは、出版社の許可を得て、表紙を掲載しております。

2015年7月

発行：宮崎県立図書館こどもしつ 電話(0985)29-2596



『おせっかい ゆうれい アツシさん』

中宮洋子／作 倫子／絵 国土社 2014

あしたの夜は「きもだめし会」。こわがりのショータは、だいすきなあいちゃんにいいところをみせようと、お寺にコースをたしかめにいきました。すると、とつぜんゆうれいがあらわれました。それは、人にやさしくするのが生きがいの、おせっかい ゆうれい でした。



『イヤムシずかん』

盛口満／文と絵 ハッピーオウル社 2014

ムシが好きな人もイヤ（にがて）な人も たのしみながらよむことができる本です。どうしてそんなすがたをしているのか？クイズをしながら かんがえてみましょう！



『あの日とおなじ空』

安田夏菜／著 藤本四郎／絵 文研出版 2014

夏休み、小3のダイキは、小6の兄ナオキと沖縄のひいばあちゃんのところに行ってきました。沖縄の家々や食べ物などワクワクすることばかり。そんな中、マジムン（まもの）のキジムナーがあらわれ、ひいばあちゃんの戦争体験を知ることになります。



『ユッキーとともに』

最上一平／作 陣崎草子／絵 佼成出版 2014

岳志はかっていた犬のユッキーがなくなって、とても後悔していました。もっと、食パンをあげたり、ボール遊びをしたり、どんなにユッキーのことが好きだったか伝えておけばよかったと。夏休み、ユッキーのために岳志はあることをおもいつきました。



『七夕の月』

佐々木ひとみ／作 小泉のみ子／絵 ポプラ社 2014

仙台に引っ越してきたばかりの晴海（ぼく）は、おばあちゃんから「まぼろしの七夕かざり」の話を聞いて、杉野と一緒に見つけることにしました。仙台の七夕まつりを舞台に友情と、大切に受け継がれていく“まつり”のおはなしです。



『カイク図鑑』

横山岳／監修 国土社編集部／編集 国土社 2014

「カイク」ってなに？というところから、育てかた、歴史までわかりやすく説明されています。これできみもカイク博士になれるかも…。写真や図が多く使われている図鑑です。



『ひまり 2.3ミリの夏』

大野圭子／作 古味正康／絵 文研出版 2014

ひまりといとこの修馬が、おじいさんのマンションで、とつぜんベランダごしに、ゴミのポリ袋が落ちるのを見ます。ベランダに飛び出すと、今度はぬり絵が落ちてきます。いったいだれが、なぜこんなものを落とすのか。二人のなぞとぎがはじまります。



『ぼくと戦争の物語』

漆原智良／作 山中桃子／絵 フレーベル館 2014

心平は東京の浅草でうまれました。昭和19年、四年生の夏、戦争がはげしくなって福島のおばあちゃんの家にかいすることになりました。家族や友達とはなれ、心平は心細い毎日をおくっていました。そんななか、東京大空襲がおこります。



『夏休みに、翡翠をさがした』

岡田依世子／作 岡本順／絵 アリス館 2014

両親や友だちへのふくざつな思いをかかえる玉江は、いとこの哲平と同級生の信彦とともに、この地でとれる翡翠をさがすぼうけんに出かけます。手がかりは、翡翠さがし名人だった玉江のおじいさんがのこした古い書物。さて翡翠はみつかるのでしょうか。



『戦場のオレンジ』

エリザベス・レアード／作 石谷尚子／訳 評論社 2014

ベイルートは、内戦でめっちゃめっちゃになり、母さんは、家に落ちた爆弾で行方不明になってしまった。悲しみと恐怖のなかでも懸命に生きているアイーシャ。戦争のために犠牲になるのはいつもこどもたちです。今でも世界のどこかでこのようなこどもたちがいることを考えて読んでみてはどうでしょうか。